

令和元年度 第3回三条市地域公共交通協議会議事録

- 1 開催日時 令和2年1月9日(木)午後1時30分～午後2時10分
 - 2 場 所 三条市役所第二庁舎 3階 301会議室
 - 3 出席委員 佐野可寸志副会長、相田義光(古田哲代理)、三村重憲(柴田優作代理)、力間俊行(諏佐夏夫代理)、笹川浩志、竹石三浩(中山真代理)、青野正典、木村雅市、目黒等、佐々木凜太郎、渡邊毅士、石井優紀(酒井良尚代理)、杉本俊哉、元川由郎、佐々健、佐藤洋一、佐々木弘一(渡辺定一代理)、佐藤春男、土田泰之(近藤晴美代理)、渡辺一美(以上20名)
(欠席委員 國定勇人会長、吉原康幸、三本和彦、高橋清吉、真島豊、遠藤正士)
 - 4 市出席者 事務局 渡辺事務局長(理事兼市民部長)、五十嵐次長補佐(環境課長補佐)、長田(生活安全・交通係長)、篠田(生活安全・交通係主任)
 - 5 傍聴者 なし
 - 6 会議概要
 - (1) 開 会
 - (2) 議 事

ア 報告

 - (ア) 三条市デマンド交通停留所の変更について
事務局から資料No.1により報告後、質疑に入る。
佐々木委員：他市町村の事例で、停留所の名称について、地名からスーパーの名前等に変えただけで利用が増加した事例があった。名称は、場所を表すだけでなく、利用の意図を伝える意味もあると思うので、考慮してほしい。
事務局：御指摘のとおり、具体的に分かりやすい停留所の名称を今後も検討する。
佐藤(春)委員：今回の変更で、要望を受けてからの対応に遅れが生じた箇所はなかったか。
事務局：変更場所の決定に時間が掛かった事例はあったが、当方としては、最短で設置したと捉えている。
佐藤(春)委員：地元との協議の時間が掛かることは了解した。今後も、可及的速やかに対応をお願いしたい。
- イ 議題
 - (ア) 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価について
事務局から資料No.2-1、2-2による説明後、質疑
目黒委員：デマンド交通ひめさゆりについてだが、地域の高齢者から300m以内に停留所がなく、停留所までタクシーを利用する場合がある。また、帰りに停留所の前に自宅があるため、

停留所から自宅まで歩いて戻る事例がある。何とかしてもらえないか。

事務局：デマンド交通ひめさゆりを、現状より使いやすい形にする事は、私たちの課題だと考えている。目黒委員から御指摘いただいたラストワンマイルの問題についても検討項目としたい。ただ、タクシーとの差別化を考慮した上で対応していきたい。

佐々木委員：事業評価については、運輸支局として、協議会で提出いただいた内容を評価させていただき、御了承いただきたい。

佐野副会長：デマンド交通ひめさゆりの運用については、様々な要望がある難しい課題だと感じる。例えば、相乗りだとドアツードアにする、追加料金を払うことで帰宅時に自宅まで送迎する等のオプションを考えてみてはどうかと思う。

続いて議長から諮り、全員異議なく承認。

(イ) 令和2年度のバス運行について

事務局から資料No.3による説明後、質疑

佐野副会長：八木ヶ鼻温泉線の最初のバスは、授業の開始時間の一時間前に到着するが、需要はあるのか。

事務局：新設で対応したかったが、既存の便の変更による対応という形になったため、このダイヤ編成となった。バス事業者、大学設置の部署と協議して合意しており、利用は見込めるものと想定している。利用が少ない場合は、対応を検討したい。

続いて議長から諮り、全員異議なく承認。

ウ その他

目黒委員：バス路線の変更等は地域住民や学校関係者に既に周知しているのか。

事務局：この協議会の承認を行った後に、地域住民や学校関係者に周知する流れとなる。

佐藤(洋)委員：栄地域の川通地区等は路線バス空白地域になっており、高校生や高齢者にとっては、移動の負担が大きい状況となっている。地域のコミュニティバスを運行する計画も検討したが、経費の関係で断念した。

事務局：川通地区等の高校生や免許返納者への対応は力を入れなければいけない部分だと感じている。地域の方々とコミュニケーションを図りながら、より良い公共交通の構築のために、地域住民と一緒に考えていきたいと思っている。

(3) 閉会